

平成30年度 第3回がまごおり協働まちづくり会議議事要旨

日時 平成30年8月29日（水）

午後2時～4時

場所 蒲郡市役所新館6階601会議室

1 開会

事務局より配布資料の確認、欠席及び途中退席者の報告

2 議題

(1) 平成30年度第2回議事要旨の確認について

○事務局より第1回まちづくり会議議事要旨を説明

→事前送付の際に出た意見をもとに修正していることも報告

委員に意見を伺い、特に意見がなく承認された。

○事務局より「はじめの一步部門」随時募集及び「ほとぼしる情熱支援部門」再募集の結果を報告

- ・はじめの一步部門及びほとぼしる情熱支援部門、どちらも応募1件。共に不採択。
- ・はじめの一步部門の次回募集締め切りは10月20日（土）。
- ・「まちづくり事業」の捉え方が難しい。
- ・自分たちがやりたいことは、住んでいる地域に伴うもの。ただ、現在は市全体の効果が求められている。
- ・団体は観光地を作るために、活動している訳ではない。
- ・今回の審査会では、団体が「市のために」ということを意識しすぎたのではないか。
- ・市全体に対して活動しているわけではない。地域にやってきたことが、結果として市に効果が及ぶと良い。
- ・これから助成金にトライしたい団体が、プレッシャーを感じてしまうのではないか。
- ・地域でやっていることに関しては、応援してあげてほしい。それが、市全体に好影響を与えるのではないか。
- ・合格の基準がこの会議で検討決定していくべきことなので、しっかりと審査や内容などを精査していかなければならない。
- ・審査員名は伏せ、現状の審査に関わる内容と項目毎の点数をこの会議の席で提示して、蒲郡市市民企画公募まちづくり事業募集のあり方や内容の検討決定に利用していくべき。そして関係団体には項目毎の平均点でよいので点数を公開すべきである。
- ・今後蒲郡で自分たちの地域をよくしたいという思いが広がっていくことが、協働の趣旨だと思う。これがちゃんと実現するような仕組みづくりをしていかないといけない。→今回のルールでは、条件付き採択の取り決めはなかった。
- ・活動の前例があることで、他の団体が取り組みやすくなることは多々ある。応募団体

は、今まで多くの前例を作ってくれていただけない、不採択は残念。

- ・12月中旬には来年度の応募要綱を出していくので、次の会議にはまとめた。

(3) 人材育成（連続）講座について

○事務局より「団体向け育成講座」及び「個人向け育成連続講座」の説明

- ・団体向け育成講座 9月2日（日）市民会館 現在：17組28名参加予定
講師：岡崎まち育てセンター・りた 事務局次長 三矢さん
- ・個人向け育成講座 11月24日、12月8、15日
講師：まちの縁側育くみ隊 名畑さん

- ① 市民まちづくりセンター登録団体にチラシを送付したが、約120団体中17団体28人の申込みだった。他の団体は大丈夫か心配もある。
 - ② 募集チラシが分かりづらい。そのため、参加者の反応がわるい。主催者記載がない。
 - ③ まちづくり会議事務局に市民まちづくりセンターと協働まちづくり課の両方が入っている。そのため、申込み先を市民まちづくりセンターとしたが、今後は記載するよう注意する。
- ・目に留まる機会、気にかける機会をどのように作るかが重要。
 - ・団体においても温度差がある。危機感を感じている団体に向けて、とっかかりをつくるような講座を開設する。まずは、それぞれの団体の特徴を掴むことを目的とする。
 - ・いい方向や改善に向かっている団体もある。その団体同士をマッチングしてあげてことをこれからやっていきたい。
 - ・会員募集は活動をオープンにした際に、見学者達に役割を担ってもらおうと有効性があるのではないか。
 - ・市民団体の中で、ボランティア・サポートを受け入れる経験があるところは少ない。ただし、最近の動きは会員とサポーターがごちゃ混ぜなところ。どの方向性が合うのかは、団体によって異なる。
 - ・蒲郡市民が対象だが、在住、在勤、在学に加えて在活の団体も含めたら良い。

(4) モデル事業について

○事務局より、前回会議からの進捗状況を説明

- ・4回ヒアリング、意見交換会を実施。
- ① 港区でまちづくりをしている方 ②若手、中堅の市役所職員
- ③ 地元の総代さん、まちづくり団体、土木港湾課 ④アピタ店長
- ・町部では、子供会がなくなっているため、出来るだけ活動に協力したい。

- ・若い親子が集う場所になっていけばよい。
- ・蒲郡は全体的にイスが少ない。少し休めるようなイスがあればよい。
- ・駅からアピタまでの動線をどうやって作るかが課題。
- ・アピタは地域貢献には出来るだけ協力したとのこと。ただし、人手不足のため、人的に協力する事は難しい。

- ・アピタのメイン客層から50～60代。若い世代が大挙すると落ち着かない雰囲気になってしまうことが心配。
- ・豊橋駅前で「金曜路上ショー」を実施した過去がある。それぞれ、路上ライブやパントマイムなどをやっている。表面的には自由にやっているように見えたが、実際は実行委員会が裏でしっかりルール作りなどに取り組んでいた。かなりにぎわっていた。夕方から夜にかけてなので、飲食店の呼び込みとの問題がクリアできればよいが。
- ・港区総代に力を借りて、実行委員会形式での委託がよい。町部周辺の総代を上手に巻き込んでいけば出来るのではないか。
- ・検証だと硬い。実験をするイメージ。
- ・若い人を巻き込みたい。総代さんと若者と議論の場を設定し、新しい風を吹き込ませたい。
- ・実際の利用層は子育て中の母親。支援センターや児童館で聞き取りしてみたらよい。
- ・青年会議所では、家族会がある。そこで聞いてみてもよいかも。
- ・立地的に日陰が少ない。パラソルのようなものがあれば滞留してくれそう。
- ・今回だけにとどまらず、どこかに波及してくれたらよい。
- ・期間は2年ぐらいをかけて検証したい。
- ・人材育成講座を折角行うのだから、講座の終着点をこの事業にしてみても面白い。
- ・アピタによるところが大きい。店長方針によっては、協力してくれそうか否かが分かれると思う。今は、協力的で助かる。
- ・まちづくり会議自体を路上でやってみてはどうか。自分たちが身を持って体験するのもよい。
- ・保育園児の作品を飾ると、親と一緒に見にくるきっかけづくりとなる。
- ・おしゃれな雰囲気になると人は集まる。
- ・見た目の動きだけでなく step1、step2 と裏の動き、実行委員会を作るなども見えるようにしていくとよい

(5) 助成金事業制度の要綱変更について

○事務局より、変更内容について説明

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・タイトル変更 ほとぼしる情熱支援部門→活動ステップアップ部門 ・はじめの一步部門 助成金交付を受けて3年未満の団体 ・活動ステップアップ部門 3年以上の活動実績を有する団体 ・助成率の導入 活動ステップアップ部門 2回目は3/4 3回目は1/2 |
|--|
- ・条件つき採用は、3自治体くらいが行っているがどの団体も審査要綱などには記載されてはいない。その場で審査員が決める方法をとっている。後に団体に説明しづらいため、採用は難しいように感じる。
 - ・条件つき採用を行っている団体は、希望額の5割支給と決まっても、申請された活動に関しては同じ内容の実施を依頼している。(残りは団体負担) そうなると決まった際には、団体に本当に実施するかを聞くと今回は見送るとなるところもある。
 - ・各審査員が6割の点数をつけないと合格できないのは厳しい。オリンピックの最高点、

最低点を除いた平均で点数をつける方法もある。

- ・審査委員の平均点が合格基準点をクリアできれば、合格でいいように感じる。
- ・審査員の中で、意見の強い方1人によい活動がつぶされてしまうのはどうか。
- ・「活動ステップアップ部門」はチャレンジするハードルが高くなってしまおうと感じる。「ほとぼしる情熱支援部門」は、チャレンジしやすい気がする。
- ・そもそもこの部門にエントリーしてくる人たちは、情熱を持って取り組んでいる。わざわざタイトルに加えなくてもよいのではないか。
- ・そもそも「がまごおり協働のまちづくり 市民企画公募まちづくり事業助成金」に ”情熱支援” といった冠をつければよいのではないか。
- ・はじめの一步部門とほとぼしる情熱支援部門はセットだった。1つを変えるなら、もう1つもかえないと違和感が残る。
- ・申請団体を増やす目標を設定し、クリアできるような名称にしたほうがいい。具体的な申請件数を定める。
- ・団体の評価の仕方を考えなければならない。多くの人からの評価を参考にするのか、一人の人の評価を取り入れるのか。
- ・助成率を導入したりする総論に関しては、おおよそ合意ができていると思う。あとは細かな各論で皆さんの意見を伺いながら決めていきたい。
- ・公益性については、蒲郡市のまちづくりに貢献するのか、市民に高いニーズがあるのか、住民が参加できるのかなどが採点基準。自分たちにあてはめると、点数が取れるか不安。地域のためにやっていることで点数がとれ、採択されないか。
- ・団体に言われたから名称変更をするとなると市は情熱を拾おうとしていないと思われるのではないのか。
- ・審査員は経済界、行政、NPOなどが加わることで、多様性で評価をしているが、今は一人の評価になってしまっているのではないか。平均点にするのか、市民投票の検討をしていく必要がある。
- ・助成金制度について委員の皆さんからあらためて意見を次の会議までに事務局に出して頂く。

次回開催について

事務局より次回日程を提案

10月29日(月) 午後2時15分～ 601会議室 で決定

上記のとおり平成30年度第3回がまごおり協働まちづくり会議の経過及びその結果を明確にするためにこの会議録を作成し、議長が署名(及び押印)する。

平成30年 月 日 委員長

㊟